

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部

令和五年七月度 入賞句一覧

投句数 五百十四句

特選



度会 さち子 選

梅花藻や伊吹に生れし水に咲く

大垣市

小林 研

醒ヶ井の地蔵川では六月下旬から八月まで、清らかな水に梅花藻の白い花が揺れる。地蔵川は年中水温が十四度。源流は古事記にも出てくる居醒の清水の湧き水という。日本武尊が熱病に倒れたとき、体を洗い流したというこの霊水は、たしかなことはわからないが、伊吹山の伏流水なのだろう。あの地にたてば、伊吹山から生まれた水と思わされる。

雲の峰もう決めてあるカツカレー

東京都世田谷区

関戸 信治

いよいよ夏休みが始まった。夏にはカレーライスがよく似合う。真つ黒に日焼けした子ども夕食を毎日考える日々が続く。むくむくと青空にのびゆく白い雲をみて、今日は子ども好きなカレーにと。カツカレーだから、子どもが試合に勝つことを願つてか。いや部活帰りの高校生たちの会話か。いずれにしてもここには、青空と白とカレーの黄色と日焼け色。まさに夏本番の色がある。

晴ればれと代田のつづく遠伊吹

大垣市

田口 貞善

さざ波のゆるる代田。その代田の果ての伊吹山。濃尾平野のこの光景は、この地に暮らすもの誰もが慣れた光景である。だが、この景色も「晴ればれ」という措辞によつて、いろんな感慨を呼び起こす。各地で洪水の被害が多い昨今だが、幸いこの地では大きな災害は起きていない。無事、収穫を迎えるまでと願う気持ちと、この地への感謝、ここに生きる幸せ感をも。

秀逸

虫干や粘菌凶鑑の薄埃

福井県敦賀市

山田 美千代

山伏の懐に入る瀧の音

養老郡養老町

佐藤 咲楽

目を閉じた写真ばかりや儼句ふ

揖斐郡揖斐川町

日下部 周子

老鷲の風の谷間を渡るこゑ

岐阜市

花川 和久

鉄橋を渡る夜汽車や遠花火

神奈川県川崎市

立野 音思

飛魚や隠岐に百余の無人島

愛知県西尾市

金子 恵美

海開き巫女の裳裾に波飛沫

兵庫県西宮市

小西 寒心

桐下駄の柁目の清し夏祭

大阪府東大阪市

森 佳月

談笑の余韻残れる夕簾

神奈川県相模原市

中村 光枝

木登りの子に夏空の果ても無し

三重県鈴鹿市

よかわ もりお

入選

着て脱いで又着て見るや夏衣
 揺るほどに空のまぶしき小判草
 梵鐘の余韻に震え菖蒲池
 色褪せし売家看板大西日
 釣り竿を振りきる浅瀬夏の雲
 父の日や福耳にして一徹な
 なめくじの逡巡の跡朝ひかり
 蛩待つスマホの中の亡き友と
 磨崖仏青光らせて蜥蜴の子
 礎のぼる樹齡いくとせ夏木立
 甘酒や吾に長寿の姉一人
 店員は日本語上手アロハシャツ
 建て売りの旗色褪せて半夏生
 滝音の邪念一気に流れ落つ
 新聞のくたりと湿りなめくじら
 ががんばや窓を左右に分け移動
 木苺や校舎の裏へ抜ける道
 ビル群の遠く鈍色さみだるる
 寝ころべば薫風の空われのもの
 冷奴ざつくり崩す六面体

一般の部

安八郡神戸町 早津 郁男
 大垣市 樋口 絹子
 大垣市 高田 雅章
 養老郡養老町 田中 紫香
 東京都新宿区 花澤 ちいこ
 埼玉県川口市 吉永 寿美子
 大垣市 立川 昌子
 揖斐郡池田町 野原 直美
 大垣市 宇佐美 昭子
 大垣市 坪井 克枝
 大垣市 宮脇 和子
 奈良県奈良市 やまとなでしこ
 東京都狛江市 椎野 一恵
 大垣市 傍島 豊子
 三重県四日市市 井戸 康子
 加茂郡八百津町 新井 ゆう
 群馬県館林市 坂口 いちお
 兵庫県高砂市 川西 智子
 大垣市 村瀬 佐智子
 神奈川県相模原市 中村 光枝

選者吟

炎天の一塊として河馬眠る

さち子

